

科目名称	物理療法学・実習
授業コード	BG217
英語名称	
学期	2024年度前期
単位	1.0
担当教員	中山 彰博, 眞保 実, 豊田 輝
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	この授業では、各種の物理療法機器原理を学び、その操作方法を理解する。 その上で、各種の物理療法機器を使用した具体的課題実習を実施し結果を導き、それを解析しレポートを作成する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	30年以上理学療法士として活動して来た臨床経験を有する教員が機器の原理、操作技術を具体的に教示する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーの知識、理解における理学療法学に関する知識、及び汎用的技能としての理学療法治療法の修得を目的としている。 その実現のため、具体的目標として下記の項目が挙げられる。 ・物理療法各機器の原理を理解できる ・物理療法各機器の適応と禁忌を言うことができる ・物理療法各機器を操作することができる
計画・内容	【第1回・第2回】 物理療法学総論（テキスト：p1～p26）担当教員：中山彰博（理学療法士） 温熱療法（テキスト：p30～p70）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第3回・第4回】 温熱療法（テキスト：p30～p70）担当教員：中山彰博（理学療法士） 光線療法（テキスト：p228～p259）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第5回・第6回】 寒冷療法（テキスト：p74～p95）担当教員：中山彰博（理学療法士） 水治療法（テキスト：p98～p115）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第7回・第8回】 電気療法（テキスト：p118～p202）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第9回・第10回】 バイオフィードバック療法（テキスト：p206～p225）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第11回・第12回】 徒手療法（テキスト：p262～p283）担当教員：中山彰博（理学療法士） 牽引療法（テキスト：p286～p299）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第13回・第14回】 圧迫療法（テキスト：p302～p317）担当教員：中山彰博（理学療法士） 振動療法（テキスト：p324～p343）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第15回・第16回】 班から 班のクラス分けを実施する。 各種の物理療法機器に対して各班は12課題を分担して実行する。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・ 豊田 輝（何れも理学療法士） 【第17回・第18回】 受講生は第15回・第16回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入す

計画・内容	<p>る。担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士）</p> <p>【第19回・第20回】 受講生は第15回～第18回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士）</p> <p>【第21回・第22回】 受講生は第15回～第20回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士）</p> <p>【第23回・第24回】 受講生は第15回～第22回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士）</p> <p>【第25回・第26回】 受講生は第15回～第24回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士）</p> <p>【第27回・第28回】 受講生は第15回～第26回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士）</p> <p>【第29回・第30回】 受講生は第15回～第28回授業で経験した物理療法機器を活用した学習課題を再確認し、得られた知見や疑問点に関して更に追実習を実施し理解を深める。各課題に対しての質疑応答は機器毎に担当教員が対応し臨床実習に際して応用可能な段階を目標に介入する。担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士）</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を行うため、クラスを細分化し12班のグループに分ける。その各々のグループは第15回～28回の実習授業に際してローテーションを行いながら各物理療法機器の実習を行う。 ・実習後、各個人毎に実習の課題レポートを作成し提出する。 ・授業の間には、復習の意味で小テストを行い理解を深める。
能動的な学びの実施	12グループに分かれ、各種物理療法機器ごとに課題実習を行い、その時に得られた結果データを元に課題レポートを作成する。
授業時間外の学修	<p>予習：テキストを読む（30分）</p> <p>復習：課題レポートの作成（1時間）</p>
教科書・参考書	<p>教科書：網本 和、他・編集『物理療法学（第5版）』（医学書院）定価4,800円</p> <p>参考書：上杉雅之・監修『イラストでわかる物理療法』（医歯薬出版）4,400円（税込）</p> <p>石川 朗、総監修『15レクチャーシリーズ、理学療法テキスト、物理療法学・実習』（中山書店）定価2,400円</p> <p>沖田 実・編集『理学療法学テキスト IX 物理療法』（神陵文庫）4,860円（税込）</p> <p>Michelle H.Cameron・編著 / 渡部一郎・訳『EBM物理療法（原著第3版）』（医歯薬出版）9,720円（税込）</p>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で提示した課題による評価：40% ・期末試験：50% ・授業態度（修学姿勢・実習参加態度）の評価：10%
課題等に対するフィードバック	・完成度が低いレポートに関しては、再提出。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時は、肌露出のし易さや衣服汚れに留意し白衣（ケージー）着用を推奨する。 ・授業中は飲食及び音楽プレーヤー等の使用を禁止する。情報確認の為にPC・タブレット・スマートフォン、等々の使用は許可するが、遊具としての使用は禁ずる。

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none">・ Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 <p>成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none">・ 授業中課題40%、期末試験（Zoomによるオンライン試験）50%、および授業態度10%で評価する。
------------------------------------	---